

県内の不審者情報などを再確認

子どもみまもり隊「子ども安全集会」

子どもみまもり隊にご協力いただける個人の方や企業・団体を募集中です

町では、「子どもみまもり隊」ボランティアのステッカー事業にご協力いただける個人、企業・団体を随時募集しています。子どもをみまもる「目」が多ければ多いほど、子どもたちを危険から守ることができますので、まだ登録されていない方でご協力いただける方は、町教育委員会までお問い合わせください。

子どもみまもり隊
美郷町

町教育委員会(千畑庁舎)学務課
☎0187(84)4914



町では、不審者による犯罪被害から子どもたちを守るため、町内で子どもたちのみまもり活動を行うボランティアの皆さんの情報交換などを目的とした「子ども安全集会」を11月27日、仙南公民館で開催しました。

集会では美郷交番の嶋田範美所長が、県内での不審者による子どもたちへの「声かけ」の事例などを紹介。平成19年中に30件以上にのぼる不審者情報が県警に寄せられていることなどの情報に触れ、参加者らは子どもたちの安全を守るため、継続した取り組みの大切さをあらためて確認しました。

よい子にしてこの日を待っていました

子育て支援クリスマス楽しみ会



▲サンタさんから参加した子どもたちへプレゼントが渡されました。

町の子育て支援の一環として、町内の未就園児とその保護者を対象に12月14日、仙南公民館で「子育て支援クリスマス楽しみ会」が開かれました。ことしで2回目を迎えたこの楽しみ会には、他の地域の子どもたちと交流する機会とともに、保護者の皆さんの育児の情報交換の場を提供する目的もあります。

この日、会場に集まった子どもたちは108人。町内3つの幼稚園・保育園の先生たちによる歌や寸劇、マジックショーのほか、みんなで「あわてんぼうのサンタクロース」などのクリスマスソングを歌いました。また、サンタクロースも登場し子どもたち一人ひとりにプレゼントを渡しました。

地方自治法施行60周年記念式典

美郷町が総務大臣表彰を受賞



地方自治法施行60周年に当たる節目の年を迎えたことを記念して、総務省主催による記念式典が11月20日、東京国際フォーラムで開かれ、美郷町が「自らの創意工夫により、優れた施策を実施し、地方自治の充実発展に寄与した市町村」として、総務大臣から地方自治功労の団体表彰を受けました。

このたびの受賞は、旧町村から継続して取り組んできた施策や合併後のまちづくりが高く評価されたものとされ、これを励みにこれまで以上に「町民のだれもが住んでよかった、住みつづけたいと思えるまち」を目指した取り組みに努めます。

なお、このたびの団体表彰は全国112市町村が表彰され、県内では他に羽後町と鹿角市が表彰を受賞しています。

秋田県市町村職員海外研修報告

財団法人秋田県市町村振興協会が主催する「平成19年度秋田県市町村職員海外研修」が、10月24日から11月2日までの日程で行われ、本町から団長として松田町長と町職員として総務課行政班の本間和彦班長が派遣されました。

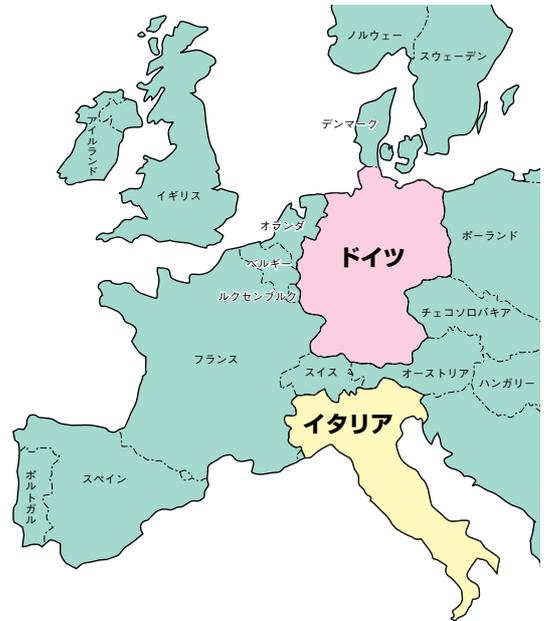
研修ではドイツとイタリアの二カ国を訪問し、高齢化対策と子育て支援ならびにゴミ処理対策に関して、両国のそれら施策に関わる施設などを視察しました。

ここでは、松田町長による総括と、本間班長による研修報告を紹介します。

市町村振興協会より第二班団長の要請を受け、研修に参加してまいりました。まずは各市町村より派遣された団員各位が、事故などなく研修日程を無事に終えたことに、団長の立場としては、ほっとしております。

研修を通じて具体的に感じたことは、歴史や伝統に基づく価値観の違いは施策に対する思想に現れるということと、課題に集中的、かつ合理的に取り組む姿勢は、取り組み方と支援内容の厚さという形で日本との違いを浮き立たせているように感じました。改めて国の責任と自治体の責任、あるいは選択と集中という言葉の意味を深慮しました。その意味において、今後の施策のあり方と方向性について、思慮を深める研修でした。

美郷町長 松田 知己



総務課 本間 和彦

現在、福祉問題における「高齢化対策と子育て支援」も、環境問題における「ゴミ処理対策」も、どの自治体においても最重要課題に位置付けられている。今回の研修ではこのテーマを中心に、フランクフルトのゴミ処理会社のリサイクルシステムと市内でのリサイクルプログラム体験、民間高齢者福祉施設の介護制度、ローマ市環境局における育児支援体制、ローマ市環境局での地域環境問題、これらの講義や施設視察を通してドイツ・イタリアの実情を学ぶことができたのに加え、イタリア在住の日本人で三越百貨店のローマ支店長からの『外国人から見た日本人』と題した講演など、内容は盛り沢山かつ充実したものであった。中でも最も興味深かったのは、ローマの地域環境問題であった。ローマ市内には、多くの古代ローマ帝国時代の遺跡が存在し、地中にも眠っているらしい。これらを目当てに世界中から多くの観光客が訪れ、観光産業が地域経済において重要な位置を占めている。反面、これらの遺跡が障害となり地下鉄などの公共交通機関の整備が遅れており、市内は自動車やバイクで溢れ、道路渋滞と排気ガスによる大気汚染が大きな社会問題となっていた。汚染された大気は酸性雨を降らせ、動植物へ被害を与え、るばかりではなく、古代ローマの遺跡をも溶かしてしまうらしい。これらの

現状を目の当たりにし、非常にスケールの大きい問題ではあるが、環境、地域交通、観光等の各分野の課題が絡み合った、格好の演習問題であったように感じた。日本だとこれに財政(難)問題も加わる。

今回の研修から、地球の裏側に位置するヨーロッパの現在の社会制度を理解するためには、古来からの人々の動き、気候、風土、社会体制や宗教などの歴史を理解する必要があるという事を学び、そして『隣の芝生は青く見える』と言うが、『日本の芝生も負けず青い』ということを感じた。日本もヨーロッパも、それぞれの歴史的背景があつて、現在のさまざまな社会制度が確立されている。日本には日本の気候風土に適した芝生があり、時には外国の育成方法の良いところを参考にしながら、それを育て、伸ばして行けばいいのである。外国を知り、自国の良さを再認識できた研修であった。



▲車で溢れるローマ市内の道路